



第2回自動車の高度化に伴う 安全確保策のあり方検討会

第1回検討会の振り返り

2021年12月14日

PwCコンサルティング合同会社



自動車の高度化に伴う安全確保策のあり方検討会について

1. 背景

- 自動運転技術や電動車の普及等、自動車の変容・高度化に伴い、高電圧保護や各種センサーの作動不良、サイバーセキュリティ等の新たな課題に対応すべく、電動車や自動運転技術搭載車(運転支援技術搭載車両も含む)の不具合情報を収集することがより重要になっている。
- また、車両のセルフチェック機能(いわゆる「OBD(On-Board Diagnostics)機能」)の導入により、今後、使用過程車に記録された故障データの更なる活用が可能となる見込みである。
- こうした不具合情報や故障データ等を有効活用することにより、安全や安心を確保した上で、ユーザーの利便性を図る取り組みについて検討する。

2. 検討事項

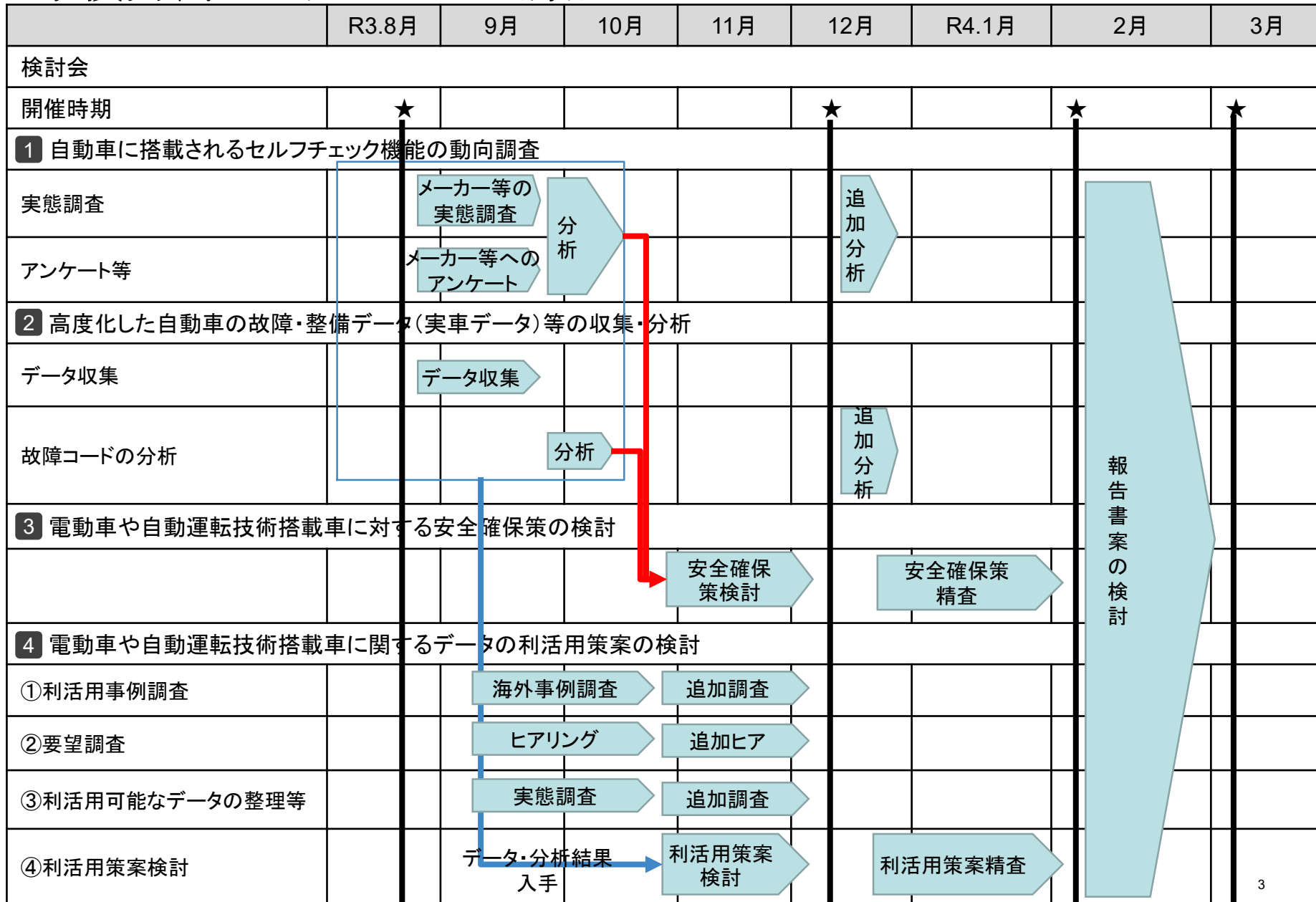
- 自動車の高度化に伴いOBD機能を搭載した使用過程車に関する故障データの収集・分析を進め、電動車や自動運転技術搭載車の安全確保策やデータの有効な利活用策についての検討を行う。
 - 自動車に搭載されるOBD機能の動向調査
 - 高度化した自動車の故障・整備データ(実車データ)等の収集・分析
 - 電動車や自動運転技術搭載車に対する安全確保策の検討
 - 電動車や自動運転技術搭載車に関するデータ利活用策の検討

3. スケジュール(想定)

令和3年8月26日 第1回検討会開催

令和3年度中 第2回(12/14)、第3回(2/16)、第4回(3/7)を開催し、方向性を取りまとめ

本検討会のスケジュール(案)



議事(概要)

項目	主な議事
座長の選任	<ul style="list-style-type: none"> ● 当該検討会の座長として須田委員が選任された。
事務局からの説明	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車にはセルフチェック機能が拡大していく見込みがあること、電動車において使用される部品点数が削減される一方電動車特有の部品などもあることから、自動車の点検箇所の増減、手法の変更・合理化を検討していく必要があること、などを事務局から説明。
委員からの 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 今回の検討会の検討対象は電気自動車に新たに搭載される部品についての安全性の検討が中心なので、資料に記載されている「<u>電気自動車において不要となる部品</u>」に加えて、「<u>電気自動車において新たに搭載される部品</u>」のデータについても整理すべき。 ● 自動車の高度化に伴ってユーザーの期待する安全性のレベルが上がっていくことに留意して、検討を行うべきではないか。 ● セルフチェック機能が充実することで、ユーザーの油断を招いてしまうことが予想される。また、警告灯の種類が多くなり、ユーザーにとっても、今、何が警告されているのかの理解が難しくなっている。そのため、<u>ユーザーに分かりやすく警告灯を表示し、各種機能を正しく使っていただく工夫が必要</u>。特に、車に表示される警告灯の意味のような情報については、<u>どういったタイミングで、どのように一般の人に届くのか、という視点が重要であり、ユーザーに届きやすい情報の伝え方を組み立てていただきたい</u>。 ● OBDから情報を得た際に、故障コードが複雑な構造になっているため、<u>メーカーにコード体系を開示していただき、団体間での協力が進んでいくことを期待</u>。 ● 「安全・安心」という言葉が常套句として用いられるが、「<u>安心であって安全でないもの</u>」「<u>安全であって安心でないもの</u>」も存在するため、両者を切り分けて考える必要がある。 ● <u>データ利活用の際には、個人情報特定できてしまう可能性に配慮する必要がある</u>。 ● OBD検査の検討の際にも課題となりましたが、<u>故障コード</u>について、法定項目以外は各社各様に故障コード等を設定・設計しているため、統一した枠組みの中で活用に向け協力するためには<u>各メーカーの仕様の違いが課題になることが予想される</u>。